

となり水量も極端に少なくなる。一三時二五分ヤブこぎ開始。右岸の尾根上に出て一三時五五分右俣パーティーと合流する。予期せぬ滝の連続でみんな満足。

帰路をどうするか相談した結果、今まで登ってきた沢をそのまま下ることに決定。懸垂下降を一三回くり返して、一七時滑川温泉より少し下った所の車デポ地に着く。充実の一日であった。

(記・世)

〔タイム〕

出合一一・三〇―奥の大滝一二・一五―二俣一二・四〇―沢終了一三・二五―右俣パーティー合流・下降開始一三・五五―大滝沢出合一六・四〇

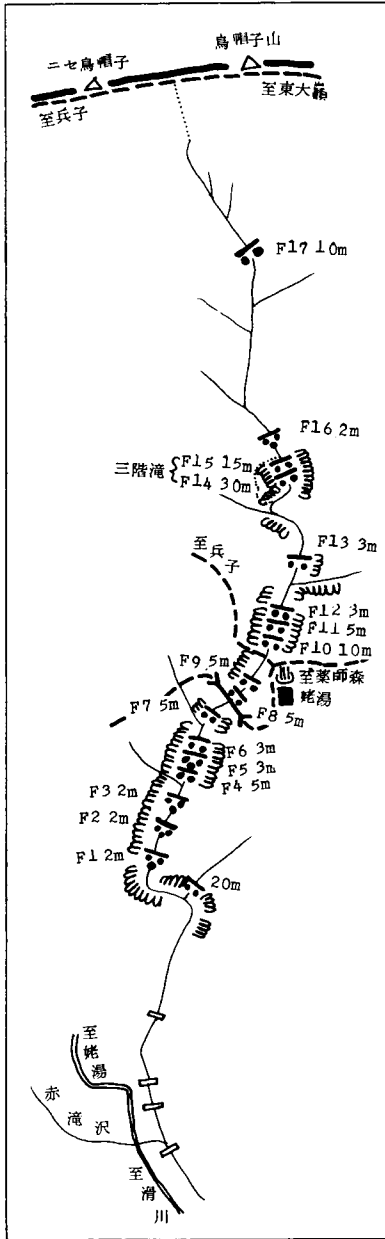
前 川

一九七六年十月十七日

◆天気(晴)

赤滝沢と前川の合流点まで車で入り廻行の準備をする。秋も深まり、このあたりは紅葉がきれいだ。すぐ砂防ダムが三つ続く。あまり水量の多くない静かな沢である。右岸に湧水のみ小滝を越えると、五^分程の滝とその





前川 (作図: i)

上流にそれより小さな滝の二つが連続してかかる。水につからないように注意して、最後は左岸を捲いて越える。やがて姥湯の吊橋をくぐる。沢が明るくなり、露天風呂や湯のわき出ている所がある。ホルドの多い一〇段、五段の滝を越えると水が急に冷たくなる。やがて沢の行く手を阻んで三階滝がかかる。この沢最大の滝である。左岸は大きく回しなければ行けそうにない。少し戻って右岸を越えることにする。垂直に近いブッシュを登り岩峰をまわりこんで背後の小尾根に達し越える。この先沢は細々と稜線直下まで続くが、もう大きな滝はかから

なかった。ニセ烏帽子と烏帽子の鞍部に出て、兵子経由で姥湯に下る。途中三階滝ヒュッテの所でカモシカに出合いカメラにおさめる。このあたりカモシカの通り道にあたっているのか、多くの人から出合ったという話を聞く。

〔タイム〕

- 出合九〇—五—姥湯一〇—三〇—一〇—五五—三階滝
- 一—一—一五—沢終了—一三—〇〇—稜線—一三—四〇—兵子
- 一四—一〇—姥湯—一五—三〇

(記)